

## 平成28年度 練馬区立石神井西中学校 学校評価報告書

練馬区立石神井西中学校  
校長 松丸晴美

## 1 自己評価結果

◇本校では、今年度の教育活動や目指す学校・生徒・保護者の姿、今年度の学校経営重点目標に沿って、生徒17項目、保護者・教職員20項目、地域関係者8項目について、(ア:そう思う、イ:ややそう思う、ウ:あまりそう思わない、エ:そう思わない)の4段階で、12月～1月に評価を行った。

結果を集計し、ア・イの回答を肯定的評価と捉え、肯定的評価の割合に注目し

- ・80%以上の項目を評価A(目標が充分達成できている)
- ・80%未満55%以上の項目を評価B(概ね達成できている)
- ・55%未満40%以上の項目を評価C(達成がやや不十分である)
- ・40%未満の項目を評価D(達成が不十分である)として表記した。

評価結果を学校関係者評価委員会において説明し意見を聴取するとともに、校内企画調整委員会、各分掌・学年部会で分析を行い、評価A・Bの項目については、次年度も継続した取り組みを進め、評価C・Dの項目については課題と捉え、具体的な改善策を策定して目標達成に向けて取り組んでいくことを確認した。なお、昨年度と質問や評価が変わっている場合は、昨年度のものを( )内に記載した。

評価項目	生徒	保護者	教職員	地域
1. 自分の夢や目標をもって学校生活を送っている。	B	B	B	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・学区の小学校でも児童の自己肯定感が低い傾向がある。部活動や校外での活動をしていない生徒にその傾向が見られるので、引き続き学校行事等を通じて所属意識を体感させながら、目的意識をもって学校生活を送れるよう支援していく。				
2. ルールやマナーを守り、規律ある学校生活を送っている。	A	A	A(B)	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・昨年度に比べ、ルール遵守やマナーに配慮した行動に対する意識が大きく高まった。教員の異動による指導の差がないように年度初めに共通理解をしっかりと行い、生徒に達成目標を示しながら、次年度も継続した取組を進めていく。				
3. 家庭や地域などで声を出してしっかりあいさつができる。	A	A	D(C)	B
<評価委員会等の分析・改善策等> ・教員の評価は昨年度より低下しているが、学校に来ると気持ちよく挨拶してくれる生徒がとても多くなったとの意見があった。教員の異動による前任校との比較で解答する教員が多く、経年変化で見ると生徒の挨拶はかなり改善されてきている。来校者や保護				

<p>者から寄せられる声はかなり良好な状態を示していた。また、挨拶できないのは成長過程のひとつではあるので仕方がないのではという意見もある。引き続き、相手に伝わる挨拶の大切さを指導していく。小学校でも挨拶できる子とできない子の差が激しい傾向があるとの意見があり、小中一貫教育の取組を通して小学校段階からの挨拶指導を徹底させていきたい。</p>				
4. 友人と仲良く、仲間と協力して学校生活に取り組んでいる。	A	A	A	
<p>&lt;評価委員会等の分析・改善策等&gt;</p> <p>・孤立しがちな生徒に適切な支援ができるよう、今後も生徒をよく観察し配慮していく。</p>				
5. 相手の身になり、思いやりの気持ちをもって生活している。	A	A	C	
<p>&lt;評価委員会等の分析・改善策等&gt;</p> <p>・言葉の使い方はとても大切であり、中学生期は女子生徒のほうが強い口調で男子生徒を傷つける傾向があるとの意見があった。今後も生徒・教職員双方の言語環境を整えていく。また、相手を傷つけていることに無頓着な生徒が多い実態があることから、次年度は道徳授業に重点をおいて、思いやりのある言動ができる生徒を育成していく。</p>				
6. 登校時には <u>バッチを着用し</u> 、始業式に着的式服など、学ぶ場に応じた服装をきちんとした着こなしができている。(生徒は、式服など学ぶ場にふさわしい服装を考えて、着用している。)	A	A	D (C)	A
<p>&lt;評価委員会等の分析・改善策等&gt;</p> <p>・式服については、きちんとした着こなしができる生徒が大半になった。しかし、通常の私服の時には、バッチの着用率は満足できる状況ではない。何度指導しても着用を忘れる生徒は固定化している。今後も生徒会活動を中心に粘り強く指導していく。</p>				
7. 学校から配られたお知らせや手紙などのプリントを、家庭できちんと見せている。	B (C)	B	C	
<p>&lt;評価委員会等の分析・改善策等&gt;</p> <p>・PTAの会合などの様子を見てみると、手紙類をきちんと見せていない生徒も少なくないように感じる。配布物を保護者にきちんと渡さない生徒は、教科等の提出物の状況も芳しくない傾向にある。学校では、今後も保護者の参加だけではなく、不参加者も返事を出すように工夫し、生徒が配布物を見せる習慣づくりに取り組んでいく。</p>				
8. 家庭学習に取り組み、学力を向上させようとしている。(基礎学力を定着させるための授業の工夫や <u>補充指導を適切に行っている</u> 。)	C (B)	C	B (A)	
<p>&lt;評価委員会等の分析・改善策等&gt;</p> <p>・( )内は昨年度の質問と評価であるが、学校の補充指導に対する評価は概ね良い状況であったので、今年度は家庭学習に対する質問とした。生徒・保護者とも家庭学習の状況に対する評価は低い。適量の宿題を出しながら、生徒の自学自習意欲を高めるよう今後も教科部会や学年会で検討し、工夫をしていく。</p>				

9. 各教科の評価・評定は適切に行われている。	A	A	A	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・今後も適切な評価・評定の実施と個々の生徒の評価をより向上させるために適切な助言を行うよう努めていく。				
10. 安全指導や防災訓練など、お子さんの安全に関する指導を適切にしている。	A	A	A	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・様々な時間や状況設定で避難訓練を実施しているが、非常に良好である。今後は、避難所や救助など、共助の訓練を取り入れていきたい。				
11. 運動会や合唱コンクールなどの学校行事は、充実している。	A	A	A	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・3学期制になったことを受けて、合唱コンクールの実施時期を変えたが非常に良い成果が得られた。次年度は開校70周年を契機に運動会の種目を大きく見直していく。				
12. 教員やスクールカウンセラー、心のふれあい相談員などは、親身になって相談にのっている。	A	A (B)	A	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・昨年度に比較し、保護者からの肯定的評価が高くなった。今後も生徒や保護者に寄り添った相談ができるよう、対話力を磨いていく。				
13. ルールやマナーを守らせる指導を適切に行い、生徒が誤ったことをしたときは家庭と連携し、きちんと指導をしている。	A	A	A	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・今後も家庭とよく連絡・連携を取り、規律ある学校生活を送る生徒を育成していく。				
14. 1年生の職業調べ、2年生の職場体験、3年生の上級学校訪問、マナー教室、卒業生の話を聞く会、高校の先生の話をする会は、働くことや進路について考える学習となっている。	A	A	A	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・生徒の事後の感想からも、体験を通してより良い学びをしている様子が伺える。				
15. 学校では、オリンピックやパラリンピックについての学習を進めています。その学習によって、オリンピックやパラリンピックに対するお子さまの興味・関心は高まっていると感じますか。(新設の質問)	B	B	B	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・今年度から新規の質問項目としたが、学校関係者評価委員からは国際的なマナーなどについても教えてほしいとの要望があった。また、東京オリンピック・パラリンピック開催に賛同ではないので、学習や興味関心を高めることに疑問視する意見もあった。				

しかし生徒は、オリパラ学習を通して、関心や自分が何らかの形でかかわりたいという感想を多くもっている。次年度も重点項目のひとつとして、国際理解教育とボランティア精神と関連付けて実施していく。				
16. 学校では、教科の学習や留学生から話を聞く会などを活用して、日本の伝統や文化、国際理解についての学習を進めています。その学習によって、 <u>お子さまの日本の伝統や文化に関する理解や国際社会への興味・関心は高まっていると思うか。</u> （日本の伝統文化に対する理解を深め、国際社会への興味・関心を高める学習に適切に取り組んでいる。）	B (A)	B (C)	B (A)	
<p>&lt;評価委員会等の分析・改善策等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、生徒と保護者の評価に差があり頻繁に取り組みの様子をホームページで掲載した。今年度は興味や関心が高まったかという質問に変えた。生徒がより積極的に英語を学ぶ意欲が高まっているのではないか、関心が高まったことで展示や掲示物の質が高まっているという意見があった。次年度も推進校として様々な教育活動を実施していく。</li> </ul>				
17. 部活動の活動状況は充実している。	A	A (B)	A	A
<p>&lt;評価委員会等の分析・改善策等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の協力を得ながら今後も一層活動が充実するように全教員で取り組んでいく。</li> </ul>				
18. 学校は、学校だより・学年だよりやホームページなどで学校の様子を適切に発信している。		A	A	A (C)
<p>&lt;評価委員会等の分析・改善策等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だよりは、町会の回覧でも配布しており、地域からも楽しみにしているとの声もあがるようになった。今後も読み応えのある内容を掲載する努力を継続する。</li> </ul>				
19. PTA 主催の講演会や学校行事、学校公開の手伝いなど、PTA 活動に参加している。（PTAの活動に積極的に取り組んでいる。）		B	A (C)	
<p>&lt;評価委員会等の分析・改善策等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA活動に参加してくれる人が限られてしまっている。昔は家庭同士のつながりがあったが、今は親同士のつながりも希薄である。セーフティ教室など、土曜日に開催してもらっても、保護者の参加が一番少ない。</li> </ul>				
20. わが子や地域の子どもたちをなるべくほめるようにしている。（新設の質問）		B	A	A
<p>&lt;評価委員会等の分析・改善策等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良いところや頑張っているところは積極的に褒めていくよう保護者を啓発していく。</li> </ul>				

## 2 学校経営計画（基本方針及び今年度の重点目標）に対する自己評価

◇今年度の学校経営計画に示した6項目の基本方針及び重点目標に対する職務行動や生徒の自己評価や観察による達成状況を各項目（4：十分に達成できた 3：概ね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：全く達成できなかった）の4段階で、12月に、教職員が評価した。結果を集計し、下記のとおりA～Dで評価した。

- ・平均3.0以上の項目を評価A（目標が充分達成できている）
- ・平成2.2以上の項目を評価B（概ね達成できている）
- ・平成1.6以上の項目を評価C（達成がやや不十分である）
- ・平均1.6未満の項目を評価D（達成が不十分である）

評価結果C・Dの項目については、達成状況が不十分として、次年度は、各分掌主任・学年主任、特別委員会を中心に具体的な改善策を策定させ、取り組んでいく。なお、昨年度と標語が変わっている項目は、昨年度の評価を（ ）内に記載した。

	項 目	評 価
豊かな心の醸成	思いやりの心や相手の身になって考え、行動できる力を高める	B
	ルールやマナーを守ろうとする心や態度を育てる	A (B)
	場に応じた言葉遣いや返事ができる	B (C)
	◇教職員の共通理解・共通指導が生徒のより良い変容につながった。次年度は道徳授業の研究・研修に取り組み、授業力の向上を図りたい。同時に、生徒・教職員ともに人権感覚を磨き、言語環境を一層整えていく。	
確かな学力の定着	基礎・基本の確実な定着と習熟度の高い生徒に対する個に応じた指導を行う	A
	思考力・判断力・表現力を高める授業を行う	B
	家庭学習習慣を形成する（テスト前の学習に重点）	A
	◇地域未来塾や補充指導は成果があがった。これまで以上に思考力・判断力・表現力を高めるための授業改善が図れるように生徒の授業アンケート項目に入れるとともに、家庭学習の質・量を高める工夫を行っていく。	
自立に向けたキャリアの形成	ゲストティーチャーによる講話を拡充し、将来の生き方・在り方を考え、希望する進路の実現に向け努力する態度を育てる	A
	困難にあっても、乗り越えようと努力する意欲や態度を育てる	B
	◇ゲストティーチャーの講話、体験・交流活動を通して自分の生き方・在り方について考えを深められたことが生徒への面接、感想文から検証できた。次年度も生徒の将来の夢や志につながるような取組を充実させていく。	
自主・自律の精神の伸長	あいさつができる（声に出す。無号令でおじぎ、授業始終の礼）	C (B)
	式服・体育着について、きちんとした着こなしができる	B
	時間を守る	B
	学校行事などを通して、自主性や責任感を育てるとともに、協力する、社会に貢献しようとする気持ちや態度を育てる	A
	◇学校行事や朝礼、避難訓練、生徒会活動などに関連させた指導・呼びかけで大きく改善が図られた。今後も学年体制で指導を徹底していく。	

資 質 の 育 成 の 推 進	国際理解に関する教育活動を推進する	A
	ボランティア活動への参加意欲を高める	A
	◇オリンピック・パラリンピック学習、日本の伝統・文化にかかわる学習、国際理解を柱に様々な教育活動を実施し、生徒の国際社会への関心やボランティア活動への意欲が高まっている。次年度も重点として取り組んでいく。	
の 推 進 の 推 進	様々な児童生徒交流の機会を設け、生徒の社会性や自己有用感・自尊感情を高める	A
	ホームページや学年だより等による広報を適切に行う	A
	地域の祭礼等のパトロールに参加する	A
	◇ホームページの充実、小中一貫教育研究 2 年目の協働実践の充実などが図られた。また、地域パトロールに参加する教員の割合が飛躍的に増え、PTAの活動も順調に進められた。	

### 3 評価結果の公表等

- ◇評価結果については、3月21日(火)、22日(水)に保護者会を開き、学校だより(3月号)を資料として、学校全体評価結果と考察を校長から、各学年の評価結果の概要と考察を学年主任が口頭で説明する。
- ◇ホームページで、学校評価結果(3月学校だより)を公開する。
- ◇地域関係者には、2月の学校評議員会で事前に送付しておいた結果についての説明を行い、意見を聴取した。加えて3月学校だよりの配付をもって公表に代えている。

### 4 次年度の学校改善に向けた校長の見解

- ◇昨年度に引き続き、「挨拶」「時間」「服装」などの基本的な生活習慣や「規律遵守」「集合・整列」について重点として指導を行ってきた。「挨拶」についてはかなりできる生徒が増えてきたがまだ「声に出して・・・」とは言えない状況である。その他の目標については教師の組織的な指導・生徒の姿とも大きく改善した。次年度も粘り強く声かけするとともに、小中連携して「挨拶」できる子供の育成に取り組んでいく。
- ◇いじめや不登校などの学校不適應につながる「思いやりの心」の育成や「相手の身にたった言動」ができる生徒の育成についてはまだまだ課題が大きいと考える。次年度も継続して重点目標とし、関連する道徳授業の改善・研究を充実させるとともに、引き続き保護者を啓発し協力を求めながら、全教育活動を通して改善に取り組んでいく。
- ◇今年度の重点である国際理解教育にかかわる「オリンピック・パラリンピック教育」「奉仕体験」については、特に、パラリンピック学習やゲストティーチャーの講演、青少年赤十字委員会を核とした活動に成果がみられた。次年度も障害者スポーツにかかわる体験学習や様々な分野からのゲストティーチャーを招聘し、学ぶ機会を設ける。
- ◇学校支援コーディネーターを活用した高齢者福祉体験学習や日本の伝統・文化体験学習、地域未来塾が実施でき、教育活動の幅を広げることができた。次年度はコーディネーターのかかわりを地域での職場体験学習に広げていく。
- ◇授業改善については、どの教員も校内授業研修会や生徒アンケートを活用しながら教材や指導方法の工夫をよく行っていた。しかし、思考力・判断力・表現力の育成については、総合的な学習の時間や特別活動ではよく取り組み、生徒の力も伸張しているが、教科の授業についてはまだ課題がある。次年度は授業改善の重点としていく。
- ◇次年度、開校70周年を契機に、教育目標の内容を単語化した「校訓」を定める。